



◆其の百十四

海を渡ってきた青磁と魚

今から約40年前、筑紫野市の南端、西小田区で行われた発掘調査で、鎌倉時代の遺跡から一枚の小皿が出土しました。

現在の中国南部、浙江省(せつこうしやう)の龍泉(りゅうせん)という場所を中心に作られ、海を渡って筑紫野の地にやってきたものです。



▲青磁の小皿(ほぼ原寸)

龍泉窯系青磁(りゅうせんようけいせいじ)という陶磁器で、宋(そう)元の時代に作られ、淡いブルーや深い緑色が特徴的です。

文様も特徴的で、口径10cmほどの小さな皿の内面には、一匹の鯉のような魚が優雅に泳ぐ姿が描かれています。



▲魚の文様

中国では、古くから、一度に多くの卵を産む魚は子孫繁栄の象徴とされ、身の回りのさまざまなモノに描かれてきました。

この小皿がほぼ欠けることなく残り続けたのは、この土地の人々の繁栄を願って大切にされてきたからでしょう。

今にも泳ぎだしそうなほどいきいきと描かれたその姿は、歴史博物館の常設展示室で見ることが出来ます。

問文化財課

